

校長室より

第36号

「天空高き」

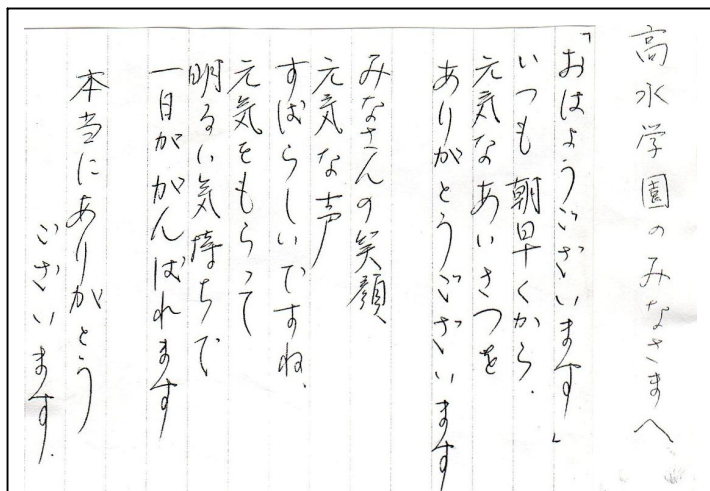


平成24年6月14日

あいさつ運動と乗車マナー

本校では、毎年6月初旬にあいさつ運動を生徒会を中心に、運動部や文化部のクラブ員にも声をかけてあいさつ運動を展開しています。今年は、JR西日本の関係者から南岩国駅で、駅員さんと一緒にお願ひできませんか、というお誘ひを受けました。本校の通学生は、南岩国駅の方々大変お世話になっているのでありがたいお話でした。

6月4日～8日の一週間、7時半から8時まで駅員さんとご一緒に実施しました。最終日の8日に、電車を降りてこられたお客さんの一人が、本校の生徒に手紙を渡し、立ち去られました。(下の右側)



きれいな字で書かれた文章を追っていくうちに、涙がこぼれそうになりました。手紙を渡された乗客のやさしさと思い遣りに、そして本校の生徒の一生懸命さに。感動と勇気をいただきました。

あいさつ運動の前の5月下旬に、南岩国駅から2名、由宇駅から1名来られ、乗車マナーについての講演をしていただきました。改めて確認したいと思いますが、5つのマナー違反を覚えていますか。

①カバンを通路や座席に置く ②優先座席に座る ③大声で話したり騒ぐ ④入口や改札付近でたまる ⑤携帯電話やイヤホンの騒音 でしたね。

これらの行為は他の乗客の方に不快にさせ、社会的にも許されない恥ずかしいことです。地域社会の一員として、自分の行動に責任を持ってもらいたいと思います。

福沢諭吉先生直伝 正しい自己アピールの方法「学問のすすめ」より

第一に、言葉について勉強しなければならない。

身近な人に自分の思ったことを直ちに伝えるには、言葉以上に有力なものはない。

第二に、表情・見た目を快くして、一見してただちに人に嫌な感じを与えないようにすることが必要である。

表情や見た目が快活で愉快なのは、人間にとって徳の一つであって、人付き合いの上で最も大切なことである。

第三に、交際をどんどん広げよ。

恐れたり遠慮したりすることなく、自分の心をさらけ出して、さくさくとお付き合いをしていこうではないか。交際の範囲を広くするコツは、関心をさまざまに持ち、あれこれをやってひとところに偏らず、多方面で人と接することである

異郷の学生がつむいだ日本語

日本語教師 馬場 良二
(熊本市東区 57)

知り合いのインドネシア人の日本語の先生に、学生が書いた作文のコピーをいただいた。日本語を学び始めてから1年たらずの女子学生だ。インドネシアは日系資本の進出がめざましく、彼女も日系企業で働こうと大学に入学したという。

「私はさごい家族がいます。内でお母さんと兄が1人います。父は一年前亡くなりました。すごく悲しくても、にっこり笑ってみました。もういちど父に

会いたくても、いつか、わかりません」
ではじまる。「すごい」が「さごい」に
なったり、濁点が落ちたりしている。でも、書かれていること、表現したいことはよくわかり胸に響いてくる。

「母はかたい人ですが、いつも家族のためにたたかいます」「お母さん、私も兄もお母さんに大好きです」で結ばれる。ことばとは言葉であり、一つひとつのことばを一生懸命、丁寧につむいでくれる若い人がいる。この作文を読むと、日本語教師の幸せと誇りを感じる。

コーヒーブレイク

「睡眠の重要性」理想の睡眠時間は？

理想の睡眠時間はどの位か。クリブケ教授（米国）らが、2002年に、睡眠時間と死亡リスクの関係を専門誌に発表。対象者は110万人を超える大規模な健康調査で、「3時間」から「10時間以上」までの睡眠時間を8グループに分け、6年間の追跡調査後時点での生死を調べた。その結果、死へのリスクが低かったのは睡眠時間が「7時間」（6.5～7.4時間）のグループ。これより短いグループや、長いグループでもリスクが増す。「10時間以上」の死へのリスクが最大で「7時間」に比べ、男性は1.34倍、女性で1.41倍。最近のデータでは「睡眠時間が5時間でも十分に長生きできる」という結果を発表した。日本人の睡眠時間は、NHK（2010）の国民生活時間調査で、7時間14分。みなさんの睡眠時間は理想の睡眠時間ですか。

- 6月～7月行事予定
- 6月25日 試験週間
- 7月 2日～6日 期末考査
- 7月 6・7日 高・中クラスマッチ

「夢を持ち続ける者は学ぶことを怠らない」
2009 冬季オリンピック女子フィギュアスケート金メダリスト キム・ヨナ

命が生きる

オピニオン

難病の次男を初めは拒絶 最低の父親でした 要らない命はないんです

私がテレビでバカやっていたころですよ。次男の由輝が生まれたのは、はい、1986年です。先天性の重い病気でしてね。それからずっと障害を抱えて生きています。今度、障害者に関する法律が変わるんですって。いろいろ思っているはありますよ。障害者の父親ですから。ああ、はい、それじゃあ、お話ししましょうか。

そのころはね、仕事も調子が良くてね。長男も9歳になって、すくすく幸せだったんです。で、子ども一人でもこんなに幸せなんだから、2人ならもっと幸せになるだろうと。単純な考えですよ。

でもって、次男が生まれたんです。けど、クルーゾン氏症候群という先天性の重い病気があっていうじゃないですか。生命に別状はないのですが、頭の骨に異常があって、手術が遅れると手足にマヒが出る可能性がある、と言われました。私も頭真っ白ですよ。

生後4カ月で、手術を受けることが決まって、その前のある日、病院に行きました。すると、次男を見

……。そんなことがありました。

手術は朝から始まって、夜の8時半ごろようやく終わった。エレベーターが開いて、おりみたいなベッドが出てきた。まわりに先生がたくさんいて、のぞくと次男が寝ている。頭は包帯だらけで、足とか腕にはチューブが何本も刺さっていた。苦しそうに呼吸をしている。

もうね、たまらなかつたです。小さな体を切り刻まれて、ぼろぼろになつて頑張っている。私はベッドにすがりついて、「由輝！ オレはお前の父ちゃんだぞ。由輝っ！」と叫びました。

実は、次男の名前をこのとき、初めて呼んだんです。それまでは、名

いながわ じゅんじ
タレント 稲川 淳二さん

47年生まれ。80年代に熱湯に入るなど体を張ったりアクション芸で人気を博す。現在は、怪談だけでなく工業デザイナーとしても活躍する。



った。
だ、重症の人ほどお金がかかると。重症の人ほど働けないわけでしょう。おかしいじゃないですか。働ける人が働いて、重症の人がフォロワーしてあげるのが普通なのに。元氣な人が考えたら「それだけ手回しまかかるとだから、その分お金ちょうだい」ということなんだろうけど。でもそれは元氣な人の考え方ですよ。

私も今は元氣ですが、8月で偽装になります。いすれ仕事もできなくなる。女房だって、いつまで面倒を見るのか分からない。先のことを考えるのが怖いんです。

何も私は人様のお金で薬がしたいなんて思っちゃいませんよ。障害は国の責任じゃないし、国に面倒を見る義務もないとは分かっています。だれが無いなんて言いません。でも、障害者なんか放っておいてもいいじゃないか、何で面倒を見る必要があるのか、日本の発展に関係もない、と思われているんじゃないか、と感じるんです。

私は、子どもには「ごめんね」、周りの人には「お願ひします」「おりがどうございます」しか言えずに生きている。次男も一生懸命、生きている。お金なんかなくなつたて、

一度でも「お父さん」と呼んでくれたら、どんなにうれしか。それほっこり考えて生きてるんですよ。そこを分かってくれているのか。日本が豊かな国なら、経済的にも精神的にも優しさを持ってるんでしょけに、財政も厳しい中で、どういふ法律を作るか、ということなんですよね。

民主党は2009年の総選挙で、障害者自立支援法を廃止して新法を作る、と公約に掲げていました。しかし政権を取ると、廃止を見送り、新法の検討会の提言も先送りしてしまいました。これまでの1割負担を實質的に「払える人は払う」という応能負担に変更していますが、障害者から「元々された」という怒りの声が上がりました。今回は、法律の名前を一障害者総合支援法に変える程度にとどまるようです。

もちろん、経済的に困っている障害者や家族も少なくないので、負担が軽くなればありがたい。公的援助があれば、いちはんです。病院に通うのだからお金がかかるんですから。

でもね、法律がどんなに変わつたって、障害者がすべて救われるってことには、おそらくならない。利がちな人がいたら本當にうれいんです。そんな温かみ、思いやりを感じられれば負担の割合なんじやなくて、法律や制度の受け止め方も少しは変わってほしいです。

誰にでも起きつつある

障害者

インタビュー

に行っただんです。すると、次男を見ていた次男が「あんな、ちよっと戻って」と、用足して個室を出て行った。私一人で次男に向き合うことになったんです。でも見るのが怖いんですよ。無責任だけど、あり得ない世界が起きていると思ってるわけだから、おそろおそろ見ると、次男は寝ていました。たれもない、しんと静まり返った病室に、「ああ、ああ」という、次男の小さな息の音が響いています。

本当に許されたいんですが、うちの子のことですから、こんな話をどうか許してください。私はね、次男に死んで欲しいという気持ちがあった。助けたい、でも怖い。そして悲しい。この子がいたら、女房も長男も将来、大変だろうな。よしねは助かって生きたとしても、いずれは面倒なことになるんだろうな。いろいろはこうを考えた。

「あんな病室も当時はよく分かってなかったし、病室には私と次男しかいない。たれにも分らない。小さいから葬式も簡単だし。じゃあ今、自分で殺しちゃおうかな。その代わり、ずっとこいつに謝り続けて生きればいいんだ」と。

「鼻をつまんだら死ぬだろうな」と思っ、次男の鼻先にくっとう手を伸ばした。でも、鼻先教習のところまで、手が届かぬ距離なんです。手が震えて、どうしてもできない。そこに女房が戻ってきたんです。

めて呼んだんです。それまでは、名前を呼ばなかった。自分の中から抹消しようとしていたんです。心のどこかで拒絶していたんです。自分が望んだ子もものに、オレは命を否定した。最低です。本当に最低です。何て最低な父親なんだと。……. 思いました。

こんな最低なことを考える親なんて、きつと私だけでしょうね。障害を持つ子にも、愛を注ぐのが親心ですから。

以後、人生、がらりと変わりました。テレビのお笑いの仕事もやめました。芸能人っていうのは、身内に不幸があっても笑ってなきゃならない。陰でどれだけ泣いても苦しくて、笑わせなきゃならない。もう、やめたい。いらいねえ、なんて言われていましたね。

でももうやめました。自分を殺してまた笑いの仕事をするのはやめよう。今、今は怪談のほか、パリアフリーの講演とか、街頭や駅で障害者に対する理解を訴えたり、応援したりしています。

法律をどう作るか

2006年にできた障害者自立支援法にも反対しました。ホームヘルプなども障害福祉サービスを受けるのに、利用料の1割を障害者が負担しなければならぬ。「えっ」と思

人生を生きるという事は、人と共生する時間の積み重ねです。人と共に喜び合い、悲しみ合い、生きていく。そこに人生の喜びも生まれます。人の人生まで大げさにして、はじめて自分の人生を生きることが出来るのです。

(評長)



「怪談の全国ツアーを始めて、気づいたら今年で20年になります。みなさんの心に残るようなものにしたいなあ」 東京都中央区麻生健康センター 麻生健彰

誰にでも起きる。一般の方々にも分かってほしいですね。私が街頭や駅で「生懸命じゃなくても」「あんなあんな」という顔をして無視する人がほとんどです。誰も聞いてやしない。

私も次男のことがあるまでは、ひとことだと思っただ。でもみんな年をとれば、どこかしく障害者が出てくると思うんですよ。足が動かないから、車いすが欲しいとかね。障害者の問題は、特別なものじゃない。みんな、たれにでも起きる問題なんです。

私の仕事の関係とか、いろいろあって、女房と次男とは別家ながらも何年も別居しています。別に夫婦仲が悪いわけじゃないですよ。次男は今年、30歳になります。重度の知的障害者です。こないだね、次男が生活実習所で作った黄の子を女房が送ってくれました。私は最低の父親ですが、そんな小さな成長の証しが、心からうれしい。優しくしてくれたい。忘れないでください。

私がお、今回、こんなこともないことも、あえてお話ししたのは、みなさんに分かってほしいという一心、それだけなんです。ごめんなさいね。世の中に要らない人、要らない命なんてないんです。それだけは、分かってくれたい。

(聞き手・有原史郎、秋山一郎)